

新緑の季節を泳ぐ

# 猪名川の鯉のぼり

5月5日は端午の節句。男の子の健やかな成長を願う日だ。川西市と池田市の境を流れる猪名川では毎年この時期、大小の鯉のぼりが現れる。鯉のぼりの設営や管理を担う地域のボランティアを取材した。

## 春の猪名川に現れた色とりどりの鯉のぼり

目にも鮮やかな鯉のぼりの群れ。阪急「川西能勢口駅」から10分ほど歩いた猪名川沿いにある公園、「ドラゴンランド」付近に今年も現れたこの光景は、川西市・池田市をまたぐ地元風物詩だ。天気の良い週末にはたくさん親子連れが散歩に訪れ、ゆうゆうと風に舞う姿を楽しむ。色や大きさ、顔つきがそれぞれ異なる鯉たちを見比べるのも楽しい。鯉のぼりの数はおよそ200本。その設営や管理は地域のボランティアによって支えられている。メンバーの1人に話を聞いた。



河川敷では子どもたちが元気いっぱい遊ぶ

中心となっているのは、川西市小川の蜜蜂産品専門店、「カンノ蜜蜂園本舗」を営む菅野敬さん。現在は数名の仲間とともに活動している。設営には「坪井製作所」が協力し、クレーン車で約5



日間かけて設置作業を行う。活動当初は知人宅や住宅街を地道にまわり、家庭に眠っている鯉のぼりを引き取る場所から始めたという。現在では鯉のぼりの寄付を募っており、持ち込んでくれる人も現れるようになった。本数が多いだけに、鯉のぼりの修繕も大変な作業のひとつだ。約1カ月間、雨風や日光にさらされるため、どうしても布地が傷んでしまう。特に針金が通っている口の部分は摩擦で破れやすい。あげる期間を短縮すれば長持ちさせられるが、

それでも毎年5月15日前後まで掲揚を続けているのは、1人でも多くの子どもたちに喜んでほしいからだ。もらい受けた鯉のぼりはできるだけ長く使えるよう、他のボランティアたちと一匹一匹、大切に修繕している。

## 活動を続ける原動力は地域を愛する気持ちから

昔は全長6メートル、口の直径だけで1メートル50センチという巨大な鯉のぼりもあったという。昔は一戸建てが多く、庭先に支柱を立てて大きな鯉のぼりを流す家庭も珍しくなかった。メンバーたちが作業中、近くを通った男の子にせがまれて、中に入れて遊ばせてあげた思い出のある1匹だ。現在その鯉のぼりはなくなってしまうが、今でも設営の作業をしている子どもたちが見学に訪れ、興味津々に眺める。

猪名川で鯉のぼりが泳ぎ始めたのは1997年のことだ。菅野さんの「地域の子どもたちが自然に触れながら遊べるまちづくり」という提案を受けて、メンバーが呼びかけに応じた。以来、現在に至るまで、何らかの形で「猪名川の鯉のぼり」に触れた人は数え切れないだろう。鯉のぼりを提供した人や撮影に来た人、偶然通りかかった人、家族とともに訪れた子どもたち。「地域のみんなで楽しんでほしい」という気持ちの積み重ねで、菅野さんとメンバーは長年活動を継続してきた。

## 子どもたちの遊ぶ風景を作り続けていくために

とはいえ心配事もある。ひとつは、鯉のぼりの数が足りていないこと。色あせたりひどく破れたりしたものは修繕ができず、処分するしかない。かつて子どもたちを驚かせた大きな鯉のぼりも、手に入りにくくなっているという。もうひとつはボランティアのメンバーが高齢化し、活動を引き継ぐ人が不足していることだ。鯉のぼりの活動以外にも、川辺の花壇の世話や河原の草刈り、子どもたちが川遊びできるエリア「せせらぎ」の補修など、地域の子どもたちのためにやりたいことは尽きない。

鯉のぼりの活動が始まって20年以上になる。長く続けて来られたのは、やはり喜んで見に来てくれる人々がいるからだ。設営の作業をしていると道行く人に「おっちゃん、苦労様やな、いつも楽しませてもらってるよ」と声をかけられることもあるという。5月の猪名川になくはならないものになった鯉のぼり。先のことはわからなくても、体力が続く限りは活動を続けたいとメンバーたちは考えている。菅野さんたちは、来年ともに鯉のぼりをあげてくれる新しい仲間を募集中だ。

## 取材協力

特定非営利活動法人 環境にやさしい街づくり推進会  
※写真はすべて2017年4月のものです

5/5(土・祝)

## 餅つき大会 開催

場所：猪名川「ドラゴンランド」付近  
時間：10:00～なくなり次第終了  
※天候等で変更の可能性あり

鯉のぼりの掲揚は5/15(火)頃までを予定

- ・鯉のぼりの寄付
- ・活動の問い合わせ は ☎090-3163-1394(藤澤)まで  
※個人番号のため架電時間に注意を



鯉のぼりは猪名川の川西市側、「ドラゴンランド」(川西市小花2-18)付近に設置されている。川を渡る大きな列が2本と7本のポール、ミニ鯉のぼりが1列。大きなもので全長4mあるという

